

第16号

広島大学だより

平成25年10月

―被爆地に開学した大学として、平和教育への取り組みをますます充実させていきますが。

現在、本学の学生の7割は、広島県外の出身者です。彼らは、県内出身者と比べて、広島県の歴史や平和について学ぶ機会がこれまで少なかつたと思います。こうした点を踏まえ、本学は平成23年度、全学部新入生を対象に、平和科目を必修化し、平和についての意識の向上に努めています。

なぜなら、いま、社会から求められている「グローバル人材」と、「平和についての意識」は、実は無関係ではないからです。社会のグローバル化が進むほど、宗教や文化が違う人と交流する機会が増えます。その分、衝突が起こりやすくなるので、それを避けるためには「共存」が大切で、その究極的な形が「国際平和」なのです。学生たちに「国際平和」について真剣に考えてもらいたい、そういう意味で、「平和科目」は大変意義があると思います。

―学長の考える「グローバル人材」とは？

異なる文化などを受け入れることができる精神的に豊かな人間のことです。現在、海外進出を加速させる日本企業の悩みは、海外で働ける人材が少ないこと。確かに「海外で暮らす」ということは、苦労することが多く、日本の常識をそのまま持ち込んだら、不自由さを強く感じるでしょう。しかし本学としては、そ

うしたこと負けず、過酷な状況も受け入れ、行動できる「タフな人間」を育てたいのです。

本学には、独自の留学プログラム「STARTプログラム」をはじめ多数の海外派遣プログラムがあります。これまでの価値観を変え、異文化を理解できる「グローバル人材」となる門戸は、広く開かれています。多くの学生に異文化を知ると同時に、語学力などを磨いてもらいたいです。

―「グローバル人材」となるために、語学力以外で、身に付けておくべきことは？

語学力の次に重要なのが、「教養」です。海外に行って、現地の人に「日本から来ました」と言うこと、文化をはじめ、日本についてさまざまなことを聞かれます。それゆえ、私たちは自分の国について知っておく必要があるのです。

本年度から始まった授業科目に「名著との対話」があります。生涯に一度は触れておきたい古典、名著など計20冊を指定し、集中講義などで熟読します。その中には、日本の文化について書かれた本、例えば『武士道』（新渡戸稲造著）があります。こうした本を読んで、日本の文化について知り、海外に行ったときに、日本人として自分の国を説明できる力にすることも必要です。とりわけ、世界的な知名度を持つ広島から海外に行くわけですから、広島の歴史や、平和に対する思いも含め

て説明できないといけません。

―広島の話が出ましたが、本学が果たすべき「地域貢献」とは？

本学の取り組みが、文部科学省の選定する本年度の「地（知）の拠点整備事業」に採択されました。これは、本学が広島県、広島市、東広島市と連携し、「ひろし

ーインタビュー
浅原学長に聞く



目標が高いからこそ成長する人も、大学も

文部科学省に研究大学として選定された広島大学は、研究力強化に取り組む、10年以内に世界トップ100位以内の大学を目標に、さまざまな改革をスタートさせました。改革の先頭に立ち、「目標が高くなければ、成長はなし」と語る浅原学長に、「本学の将来像」などを聞きました。

まの平和発信」「条件不利地域」「障がい者支援」という広島地域の重点課題の解決を目指す取り組みです。その中で、全学生が参加する新たな教育プログラムを構築し、「ひろしま」を知り、理解し、発信することができる人材を育成していきたいです。また地元企業に卒業生を送り出すことも地域貢献です。地元企業でも、インターンシップで在学学生を多く受け入れていただいています。これは、学生にとって「社会で働く」ということを知る絶好の機会。社会勉強になると同時に、「大学で何を勉強すればよいか」が分かります。そのため、来年度から、1年生を対象とした体験型の授業科目を開設する予定です。

さらに本学は、医療人の育成などを通して「地域の医療を守る」という責任がありますし、高度医療を提供する大病院は、地域医療の最後の砦。本年9月に、大病院に開院した新たな診療棟は、その役割を担う上でさらなる貢献を果たすでしょう。

―「グローバル人材育成」と「地域貢献」を両立させるのは、難しいことでは？

「地域」という言葉を限定的に捉えるべきではありません。日本や、アジアも、ある意味では「地域」。日本やアジアに「研究大学」として、広く貢献することも本学の使命です。現在、日本の医療は世界でもトップレベル。それを開発途上国、特にアジアに、「教育体制も含めて提供したい」と考えています。当然、医療だけでなく、高等教育分野の教員や、工学などのものづくり人材を現地で養成していくことも必要です。

これは相手の国のためだけでなく、日本の将来を支える上でも重要なことです。現在、日本は少子化が進んでいますが、国の活力を維持するためには優秀な若い人材が必要。そのための重要な方策の一つが、留学生の獲得です。研究大学である本学は、「地域貢献」を通じて、その一翼を担わないといけません。

―本年8月、文部科学省は、研究力強化の取り組みを支援すること

を目的とする事業「研究大学強化促進事業」で、本学を研究大学として22大学・機関の一つに選定しました。本学にとっての同選定の意義は？

この選定の価値は、「もし、選ばれなかったら？」を考えれば、分かります。留学生は「研究大学」を目指し、日本人学生も「研究大学」に集まるでしょう。そんな時代の流れの中、もし選ばれなかったら、学生も来なくなり、研究費も次第に減少していくでしょう。それを考えると、選ばれたメリットが大きいことが分かります。

しかし、「選ばれたから、これで終わり」ではなく、「これが始まり」なのです。「研究力の強化」が本学に与えられた課題ですから、もっと研究力を上げていく必要があります。そこで具体的には、今後10年間で、論文数や被引用数、大学院の留学生数を倍にし、「世界トップ100位以内の大学」という大きな目標を掲げました。

―「目標は高く掲げないと駄目」というのが、学長の持論だそうですが。

そうしないと、高いところに到達できませんし、目標が高いからこそ、そこに到達するために、みんな努力し続けるのです。これは「生涯学び続ける人間をつくる大学」という精神にもつながります。また研究力が高くなれば、教育力も上がります。本学では、体験型学習を増やし、学生が成長する教育プログラムを構築していきます。

学生には、本学の整った環境の中で学び、主体的に行動し、自分の進むべき道を決めることができる力を身に付けてほしいと思います。そのために本学は、教育力や研究力を通じて、「学生が成長する大学、国際社会で存在感のある大学」を目指します。

11月2日(土) 第7回 広島大学ホームカミングデー

11月2日(土)、第7回ホームカミングデーを開催します。

広島大学ホームカミングデーは、広島大学と広島大学校友会が卒業生や元教職員などを招待して歓待するイベントとして、毎年11月の第1土曜日に開催しています。

東広島キャンパスのサタケメモリアルホールをメイン会場として、午前中はオープニングセレモニー「20歳の風景」、山内昌之氏(東京大学名誉教授)による学術講演「歴史に学ぶ」と、メイン会場周辺では、物産展、ホームカミングデー学生チーム企画、海外校友会交流会、懇親会などを

実施し、学部・研究科においても多種多様な企画行事を行うほか、当日は大学祭、E-Storm(教育学部祭)(11月3日(日)も開催)も同時開催します。なお11月9日(土)には霞ヶ丘キャンパスにて、霞祭(11月10日(日)も開催)とともに北村惣一郎氏(国立循環器病センター名誉総長)による講演を開催します。

当日は、本学にゆかりのある方々を中心に、地域の皆さまにもより多くの参加をいただき、交流を深めていただきたいと考えておりますので、ぜひご参加ください。教職員、在学生がお待ちしております。

- 「再生医療と人工臓器」
15:00～16:30/霞ヶ丘キャンパス広仁会館大会議室
※霞祭(11/9(土)、10(日))開催
- 文書館「昭和のかおり」優品展
11/1(金)、2(土)
10:30～17:30/中央図書館1階ロビー
- 情報メディア教育研究センターセミナー
13:30～16:30/情報メディア教育研究センター
- 東広島天文台
17:00～19:00 観望会
※天文台へマイクロバスの送迎有
- キャリアセンター(11/30(土))
・基調講演・個別交流会
13:00～17:30/法・経済学部
・懇親会
17:30～19:30/東福利会館

大学祭、E-Storm(教育学部祭)
11/2(土)、3(日)開催



第6回広島大学ホームカミングデーの様子

- 法学部・経済学部・社会科学部研究科
・講演会
13:30～14:45/法学部・経済学部講義棟B351大会議室
- ・懇親会
14:50～15:30/法学部・経済学部講義棟A102中会議室
- 理学部・理学研究科
・生物科学科同窓会
12:30～16:00/理学研究科E002
- ・地球惑星システム学専攻 シンポジウム
13:00～17:00/理学研究科B棟603号室
- 先端物質科学研究科
・研究室公開
11:00～15:00/先端物質科学研究科、ナノデバイス・バイオ融合科学研究所
- 工学部・工学研究科
・研究室訪問、パネル展示
13:30～15:00/工学研究科大会議室
- ・他
- 生物生産学部・生物園科学研究科
・食料・環境問題国際シンポジウム
13:00～16:30/生物生産学部C206講義室
- 国際協力研究科
・20周年記念セミナー
13:30～15:00/国際協力研究科大会議室
- 霞地区合同(11/9(土))
(医学部・歯学部・薬学部・医歯薬保健学研究所・原爆放射線医学研究所・大学病院)
・講演会 北村惣一郎氏

- メイン会場：サタケメモリアルホール
9:00～ 受付開始
10:00～11:00 オープニングセレモニー
・HCDスペシャルコース
・学長挨拶、来賓紹介
・大学歌合唱
・広島大学「20歳の風景」スライドショー
- 11:00～12:00 学術講演 山内昌之氏
(東京大学名誉教授)「歴史に学ぶ」
※サタケメモリアルホールロビー
「広島大学の歴史」展
(10:00～17:00/広島大学文書館)
- サタケメモリアルホール周辺
10:00～17:00 連携市町の物産展
11:00～16:00 HCD学生チーム企画
- 学士会館会場
16:00～17:30 懇親会(会費制)
- 学部・研究科会場
■総合科学部・総合科学研究科
・海外留学報告会 13:30～15:00
・総合科学部後援会総会
14:10～15:00/総合科学研究科第1会議室
- 文学部・文学研究科
・世界とふれあう語学カフェ
14:00～16:00/文学研究科B153講義室、講義棟1階学生ロビー
- 教育学部・教育学研究科
・演奏会 オペラハイライト上演
13:30～15:30/教育学研究科F棟101号室
・プレゼンテーション「まなぶ・はたらく」
10:00～17:00/北体育館、体育館前

トピックス

2013年4月～9月

「学生が成長する大学」を目指し、グローバルでタフな人材の育成に取り組む広島大学。この半年の主要な内容をダイジェストでお伝えします。

平成25年4月

●平成25年度入学式を挙行



学部学生2,508人、専攻科生22人、大学院学生1,387人に入学

11人を採用

●文書館が新たな資料を公開

本学にゆかりのある大牟田稔氏（元広島平和文化センター理事長）、森岡正美氏（元広島県立高校校長）に関する資料。

●X線自由電子レーザー（XFEL）による重原子の特徴的な振舞いを検出

和田真一助教（理学研究科）らの研究グループ。

●サバ大学（マレーシア）とフェニックスリーダー育成プログラムの意見交換を実施

平成25年5月

●広島大学校友会が「第37回ひろしまフラーフェスティバル」に参加

●本学の震災支援活動に対し、福島県知事が感謝状を贈呈



運航を開始した広島県ドクターヘリ



内堀福島県副知事（左）から感謝状を受け取る浅原学長（右）

●先端物質科学研究科がジェンベル大学先端科学技術推進センター（インドネシア）と部局間国際交流協定を締結

●超伝導転移温度の高さと電子対の強さをつなぐ法則を発見

井野明洋助教（理学研究科）らの研究グループ。

●留学WEEK2013を開催

留学について語り合う機会の提供と学内外の各種プログラムなどを紹介。

●本学とケニヤッタ大学（ケニア）による学生交流フォーラム「HUKU Student Forum 2013」を開催

●平成25年度フェニックス奨学生に



両大学の学生で記念撮影

●理学研究科がレンヌ第1大学科学・物性教育研究センター（フランス）と部局間国際交流協定を締結

●ウラル国立大学（ロシア）の副学長らが本学を訪問

●「学生プラザ昼時ミニコンサート」を開催

音楽協議会に所属する学生サークルが演奏を披露。

●附属幼稚園の園児が田植えを体験

●本学学生、バスケットボール女子U-19日本代表チームのメンバーに選出

●文書館が昭和20年代瀬戸内の貴重な資料を公開

広島とゆかりのあるビル・シェリフ（ウィリアム・ジョージ・シェリフ）氏に関する資料。

平成25年6月

●体育会ソフトテニス部男子が3年連続で全国大会に出場

●電子に働く力の定量化に初めて成功

岩澤英明助教（放射光科学研究センター）らの研究グループ。

●アトピー性皮膚炎患者における汗アレルギーの原因物質を同定

秀道広教授（医歯薬保健学研究科）らの研究グループ。

●体育会ヨット部・女子ヨット部が中国インカレで好成績

団体で優勝。宮澤侑吾さん（工学部3年）と黒瀬友紀さん（生物生産学部2年）のペアが個人スナイプ級で優勝、大田夕紀さん（教育学部3年）と亀山隼輔さん（経済学部3年）のペアが個人470級で2位入賞。

Pick Up!

●本学学生、広島県竹原市で田んぼアートのデザインを手がける

●国際協力研究科（「アジアの平和と安全保障」プログラム）がパヤップ大学（タイ）と部局間国際交流協定を締結

●ヤンゴン歯科大学および林野庁（ミャンマー）とフェニックスリーダー育成プログラムの意見交換を実施

●国際協力研究科と法学部（「アジアの平和と安全保障」プログラム）がチェンマイ大学政治・行政学部（タイ）と部局間国際交流協定を締結

●工学研究科が忠南大学校グリーンエネルギー工学研究院（大韓民国）と部局間国際交流協定を締結

●体育会軟式野球部、全国大会出場

●「広大クリーンプロジェクト」を実施

浅原学長をはじめ学生・教職員総勢275人が参加し、キャンパスのゴミを拾った。

●第18回

ゆかたまつりを開催



浴衣や甚平姿の参加者

平成25年7月

●小島由継教授（先進機能物質研究センター）の研究が独立行政法人科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業・先端的低炭素化技術開発の特別重点技術領域に採択

●歯の喪失とアルツハイマー病の関係を動物実験で解明

大上博史歯科診療医（病院）らの研究グループ。

●「学長と学生との意見交換会」を開催

約40人の学生が参加し、教育内容や

Pick Up!

学生支援の充実など、活発な意見交換を行う。

●開南大学（台湾）と大学間国際交流協定を締結

●医歯薬保健学研究科が中国医薬大学健康看護学院（台湾）と部局間国際交流協定を締結

●第168回広島大学学位記（博士）授与式を開催

15人に博士の学位記を授与。

●簡便な方法で、従来の130倍高性能な光触媒の開発に成功

齋藤健一教授（自然科学研究支援開発センター）らの研究グループ。

●サンパウロ大学（ブラジル）の学生を迎えて夏期特別研修を実施

学術交流協定校であるブラジル・サンパウロ大学法学部から学生19人が参加。

●ホーチミン市医科薬科大学歯学部（ベトナム）に歯学部との共同研究センターを開設

●単純な金属を磁気センサーに活用できる新メカニズムの発見

獅子堂達也助教（先端物質科学研究科）らの研究グループ。

平成25年8月

●INU（国際大学ネットワーク）学生セミナーおよび修士サマースクールを開催

海外8カ国10大学の学生・教職員約70人と国内3大学の学生・教職員約100人が参加。

●平成25年度広島大学原爆死没者追悼式を挙行

●文部科学省の平成25年度「地（知）の拠点整備事業」に本学の取り組みが採択

●文部科学省の平成25年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」に本学の取り組みが採択

●文部科学省「研究大学強化促進事業」に本学が研究大学として選定

●広島大学オープンキャンパス2013を開催

Pick Up!

●附属福山高等学校の軟式野球部が全国大会に出場



昨年は1,900人以上も上回る34,347人が来場

●第58回全国高等学校軟式野球選手権大会に西中国代表として出場。

●文化サークル団体連合百人一首愛好会が全国大会で好成績

●第20回全日本大学かるた選手権大会の団体戦の部でベスト16。個人戦（新人の部）で、加茂優太さん（法学部1年）がベスト8、松田あい子さん（教育学部1年）がベスト16。

●生物生産学部を会場に「日本生物学オリンピック2013本選（広島大会）」を開催

●難治性疼痛に対する治療薬候補の発見

●仲田義啓教授（医歯薬保健学研究科）らの研究グループ。

●学生サークル「広島大学吹奏楽団」、全国大会出場

●豊かな生態系は水辺のレジャー利用を増加させることを発見

土居秀幸特任講師（サステナブル・ディベロップメント実践研究センター）らの研究グループ。

●巨大な構造転移を伴ったモット絶縁体の金属化に乾電池1個に満たない電圧で成功

●中村文彦助教（先端物質科学研究科）らの研究グループ。

●大学病院の新診療棟の開院を記念したオブジェを霞キャンパス入口に設置

●大学病院の新診療棟が開院

●体育会陸上競技部が全日本学駅伝対校選手権大会の中国四国地区予選会で1位入賞。全国大会に7年連続で出場

●平成25年度広島大学秋季学位記授与式を挙行



大学病院の新シンボル「Four Seasons Tree（四季の木）」

Pick Up!

●福島県南相馬市と包括的連携協力に関する協定を締結



被災地の自治体と初めて協定を締結

平成25年9月

●文部科学省の平成25年度科学技術人材育成費補助事業「女性研究者研究活動支援事業（拠点型）」に本学の取り組みが採択

●放射線被ばく後に発病する白血病の原因遺伝子を発見

●稲葉俊哉教授（原爆放射線医科学研究所）と本田浩章教授（同）らの研究グループ。

●緊急仮橋モバイルブリッジの伸長展開と車両走行の公開実験を実施

有尾一郎助教（工学研究院）らの共同開発プロジェクト。



車両3台を使った走行実験

●大学病院の新診療棟が開院

●体育会陸上競技部が全日本学駅伝対校選手権大会の中国四国地区予選会で1位入賞。全国大会に7年連続で出場

●平成25年度広島大学秋季学位記授与式を挙行



学部生43人、大学院生173人に学位を授与

Pick Up News

トピックスの中から気になるニュースを詳しくご紹介！

女子バスケットボール日本代表メンバーとして、世界大会に出場！

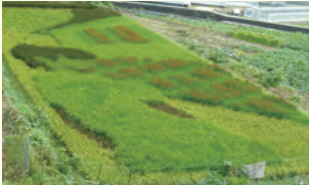
●女子バスケットボール日本代表メンバーとして、世界大会に出場！
体育会バスケットボール部の熊美里さん（教育学部1年）が、7月にリトアニアで開催された「第10回FIBA（国際バスケットボール連盟）U19女子バスケットボール世界選手権会」に、日本代表メンバーとして出場しました。日本チームは準々決勝に進出し、アメリカに敗れ惜しくも8位。シュートینگガードとして、全9試合に出場した熊さんは、「初戦から厳しい戦いとなり、世界で戦うことの厳しさを痛感しました。でも、常に上を目指して戦い切れたことは、私にとっても貴重な体験です。これからも、日々前を見据えてがんばりたいと思います。たくさんの方の応援、ありがとうございます。」と語りました。



熊美里さん

田んぼアートをデザイン

●田んぼアートをデザイン
小田成美さん（教育学部造形芸術系コース3年）、金田茜さん（同）、田丸治樹さん（同）が、竹原市にある休耕田で行われている田んぼアートのデザインを手掛けました。タイトルは、「たけはら美人」。竹原の伝統的な建物を背景に、浴衣姿の女性がたたずむ様子を表現。6月に、市民・子どもたちと一緒に田植えを行い、稲の成長



写真提供：竹原市（9/2撮影）



左から金田さん、小田さん、田丸さん

と共に、画が現れてきました。10月14日（月）には、稲刈りを行う予定です。

体育会軟式野球部が、春季リーグで三季連続優勝を達成！

●体育会軟式野球部が、春季リーグで三季連続優勝を達成！
4月7日（日）から行われた「広島六大学春季リーグ戦」において、本学軟式野球部は、三季連続優勝を果たしました。この結果を受けて、8月25日（日）から岐阜県で行われた「全日本学生軟式野球選手権大会」に出場しました。

六大学リーグ表彰選手

●最高殊勲選手：上原北斗（総合科学部3年）
●最多打点：竹島佳佑（総合科学部3年）
●最多本塁打：竹島佳佑（総合科学部3年）
●最多盗塁：瀬戸口稔二（総合科学部3年）

ベストナイン

（捕手）：上原北斗（総合科学部3年）
（遊撃手）：瀬戸口稔二（総合科学部3年）



記念写真

文部科学省の平成25年度「地（知）の拠点整備事業」に本学の取り組みが採択

●事業名 平和共存社会を育むひろしまイニシアティブ拠点
【連携自治体】広島県、広島市、東広島市
【概要】広島地域の共通課題である「ひろしまの平和発信」「条件不利地域」「障がい者支援」の3つの重点課題の解決に地域と連携して取り組む。全学生が、現場体験を基本とする新たな教育プログラム「ひろしまイニシアティブ拠点」に参加することにより、「ひろしま」を知り、理解し、発信することのできる人材育成を目指します。事業期間は、平成25～29年度。

文部科学省「研究大学強化促進事業」に本学が研究大学として選定

●文部科学省「研究大学強化促進事業」に本学が研究大学として選定
今後、本学のさらなる研究力強化に向け大学全体で取り組むことで、10年以内に世界トップ100位以内の大学を目指します。

事業実施期間 原則10年間とし、5年ごとに対象を見直し

【本学の取り組み】
■学術系・専門系・事務系人材が総合力を発揮できるURA組織体制を整備し、研究戦略から資金獲得、プロジェクトの立ち上げ・実施・成果の活用・発信まで一連の研究支援活動を実施
■多段階の研究拠点育成・選定システムを整備し、URA等による重点支援を実施
■個人評価の点数化・処遇への反映、年俸制の適用拡大により、研究人材を確保・育成
■ライティングセンターの拡充、研究者招聘、国際共同研究支援等により、国際研究活動活性化

支援対象機関(22機関)	
4億円	東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学
3億円	筑波大学、東京医科歯科大学、東京工業大学、電気通信大学、大阪大学、 広島大学 、九州大学、奈良先端科学技術大学院大学、早稲田大学、自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、情報・システム研究機構
2億円	北海道大学、豊橋技術科学大学、神戸大学、岡山大学、熊本大学、慶応義塾大学

※URA: University Research Administratorの略

広島大学吹奏楽団が全国大会に出場！

●広島大学吹奏楽団が全国大会に出場！
8月に倉敷市で行われた「第54回全日本吹奏楽コンクール中国支部大会」において、本学吹奏楽団が金賞を受賞。10月に福岡で開催された「第61回全日本吹奏楽コンクール」に出場し、10年ぶりの全国大会出場を果たしました。また、12月には定期演奏会を開催します。団長の



広島大学吹奏楽団

ホームカミングデー学生チームからのPR!

ホームカミングデーにご来場いただく方々をおもてなしするために、今年も在学生チームを結成! アイデアを凝らした企画を用
第7回広島大学ホームカミングデー
(日 時)11月2日(土)
(メイン会場)東広島キャンパス サタケメモリアルホール
【HCD学生企画】各種学生団体によるステージ企画、ブース企画(手つなぎ写真、お好み焼き販売等)
HCD学生チームFB: <https://www.facebook.com/7thhuhcd>
HP: <http://www.hiroshima-u.ac.jp/koyukai/>



新診療棟(手前)

「タフな人間」になるために



江坂宗春 副学長(学生支援担当) キャリアセンター長

広大生の就職状況は?

平成20年のリーマン・ショック以降、落ち込んでいた就職率が、だんだんと回復してきています。特に、修士・博士課程前期の修了生の就職率が上がっていますし、企業への就職率も全体的に上昇傾向にあります。ただ、本学には公務員や教員を目指す学生が多く、最近、両者とも狭き門になっているため、希望どおりにいかないケースもあります。

「どんな人材が求められていますか? グローバル社会の現在、企業が求めるのは、世界に目を向け、どこに行っても活躍できる人間です。専門知識や基礎学力も重要ですが、それ以上に、コミュニケーション能力や主体性、協調性、リーダーシップやグローバルな視点を持っているかどうかを見ています。」

あとは、ストレスに耐える力です。昔と比べて核家族化しているため、家庭の中で大事に育てられてきた学生が多い。そういう学生が、企業の厳しい環境の中に入ると、途端にくじけてしまします。いろいろな苦難・ストレスにも耐えうるチャレンジ精神のある強い人間。浅学長もよく言われる「タフな人間」が必要とされています。

「タフな人間になるには、どのような学生生活を送ればよいですか?」
手や体を動かすフィールド教育やサークル活動、社会を知ることができるインターンシップやボランティア、アルバイトもいいですね。キャリアセンターでもインターンシップを促進していますが、初めはなかなかみんな行きたがりません。しかし、嫌々行った学生も、帰ってきたら、みんな「良かった」と言っています。要するに、食わず嫌いなところがあると

思います。新しいことに挑戦するのが怖いの、あるいは、メリットがあるかどうかをいつも考えて、ないと思うと行かない学生が多いように感じます。意外と、無駄だと思ってしまうことも多いです。大学4年間は、勉強をして単位を取れば卒業できますが、それだけで全然面白くない。

「来年度からは、1年生対象の体験型授業科目を開講するそうですね。早いうちに社会を知ってもらい、自分が大学時代にどういう勉強をしたらいかが知ってもらうことが目的です。」「社会との接点がないから分らない」という学生がよくいます。が、頭で考えるより、一度体験した方が早い。」「百聞は一見にしかず」という言葉がありますが、私はよく「百見は一体験にしかず」と、言います。実際に体験をして「こういうものなんだ」と身に染みると、社会がどう動いているのか、そこでどう生きていけばいいのかが分かる。いろいろな経験をして自分を知り、社会がどういうところなのかをしっかり捉えることが大事です。」

「キャリアセンターはどのような支援を行っているのですか?」
専任教員や、企業での人事担当経験・相談業務の資格を有する相談員・キャリアアドバイザーが、個別相談に応じています。意外と知らない学生も多いので、就活のことで悩んでいたら、まずはキャリアセンターに来てください。挨拶や面接の仕方から、エントリーシートの書き方の演習まで、的確にアドバイスをしています。広島大学は研究者への道も勧めているので、進学が就職か、進路に悩んでいる学生も歓迎です。その他にも、各種ガイダンスやセミナー、進路が決まった学部4年生と大学院生が「キャリアサポーター」となり、後輩の就職活動をサポートするボランティア制度などもあります。

「首都圏での就職活動について教えてください。」
首都圏で就職活動をする広大生も多くいます。ただ、最終面接は交通費を出す企業もありますが、自費のところはほとんどです。そのため、東京の学

広大生の就職率(平成24年度)

プログラム名	全体	企業	公務員	教職
就職率(全体)	89.3%	93.2%	76.5%	86.0%
就職率(学部)	88.1%	94.3%	70.6%	85.0%
就職率(修士課程・博士課程前期)	91.0%	91.8%	90.0%	88.0%

※就職率=就職決定者数÷就職希望者数

生と比べると、時間と旅費の面だけでも不利ですね。そこをなんとかしたいと、首都圏や関西地区に就職を希望する学生を対象に、就職活動支援バスツアーを実施しています。

就職活動は大変ですが、最近では、「就活で鍛えられて成長した」と実感する学生も多いようです。面接を受けたり、同じ就活生と話したりする中で刺激を受け、「このままではいけない」と思い、強くなっているのではないでしょうか。

「最後に、保護者の方へメッセージを! キャリアセンターでは、さまざまなサポートを行っています。あくまでも学生が主体的に動くことが必要です。保護者の方からも、留学やボランティア、インターンシップなどを勧めていただき、なるべく社会性を身に付けるように導くことが大事だと思います。ただ、留学や就職活動には、どうしても費用がかかるので、その面は引き続きご支援いただければと思います。また広島大学は、大学院大学でもありますので、大学院に行きたいというお子様へのご理解・ご支援もよろしくお願いいたします。」

ぜひ、学生が「タフな人間」となり、卒業後も社会で活躍できる人材となるよう、ご協力をお願いいたします。



キャリアセンターは、学生プラザ2にがあります。

▽キャリアセンターURL
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/kyaria/index.html>

弱視の人が、実際に見ることができる範囲や文字の大きさなどを測定するiPad専用の無料アプリ「日用視野測定ツール」を開発した、教

最後に「目が見えにくい人って
40〜50歳をすぎたらぐっと増えてく
る。意外に身近なんですよ、視覚障
害者の教育って。私たちがやってい
ることは、学校教育の中ではあまり
メジャーではないですが、社会全体
で捉えると、恩恵を受ける人がかな
り多い分野でもある。そう考える
と、視覚障害教育を学問として体系
づけていくのは、社会全体としても
有意義なことだと思います。見えに
くさで悩んでいる人たちをもっとハ
ッピーにしていきたいですね」と、
笑顔で話してくれました。

※教職員・学生による留学相談も行っています。